

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組

春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業



文部科学省

地(知)の拠点

まちづくりを通して共に学び **共学** 共に育つ **共育**

第2回

Chubu University

中部大学 地域連携

Kasugai City

# 市民フォーラム

2014 2nd in Autumn

参加  
無料

講演テーマ

## 長寿社会に生きる

東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授

秋山 弘子 氏

## パワースポットとしての高蔵寺ニュータウン ～都市を立地条件から見つめる～

中部大学 工学部 都市建設工学科 教授

磯部 友彦

平成26年

開催  
日時

10月11日(土)

14:00~16:10 (13:30 開場・受付)

開催  
場所

春日井市 東部市民センター ホール

春日井市中央台2-2-1 TEL.0568-92-8511

【交通のご案内】

- JR中央本線「高蔵寺」駅下車(名古屋駅より快速で約26分)
- 名鉄バス、高蔵寺駅北口のりばより「高森台」(約8分)下車、徒歩約4分
  - ▶4番のりば…かみや団地口、福祉の里、高森台北
  - ▶4番のりば…桃花台センター(春日台経由)行
  - ▶5番のりば…石尾台南

主催

中部大学

後援

春日井市



中部大学

春日井市と連携し、大学の「人材」「技術」「知」を活用して、地域の活性化に取り組みます。

平成25年度、中部大学の「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」が、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択され、全学的に推進しています。この事業は、自治体、地域NPO、住民が大学のキャンパスの壁を越えて融合し、持続可能な新しい未来社会とその教育を春日井の地に実現することを目的としています。そのために、この事業の内容・趣旨を地域の皆様にお知らせし、事業への協力と積極的、自主的関与を依頼する機会として市民フォーラムを開催する運びとなりました。

※大学COC(Center of Community)事業は、文部科学省が推進する「地(知)の拠点整備事業」で、国が地域の課題解決に取り組む大学を支援するものです。

**第2回 中部大学 地域連携市民フォーラム／開催プログラム**

**13:30～ 開場・受付開始**

**14:00～14:30 開会挨拶** 中部大学長 **山下 興亜**  
**来賓挨拶** 春日井市長 **伊藤 太氏**  
**来賓挨拶** 文部科学省 高等教育局 大学振興課

**14:30～15:15 講演 ① 長寿社会に生きる**

日本では永らく人生50年といわれてきたが、世界最長寿国の日本人女性の平均寿命は86年を超え、人生90年時代が到来した。長寿社会に生まれた私たちの課題は大きく分けて2つある。一つは90年の人生を設計して生きるという個人レベルの課題である。人生50年時代と人生90年時代の生き方はおのずと異なる。人生が倍近く長くなっただけでなく、人生を自ら設計する時代になった。もう一つは社会のインフラの見直しという社会レベルの課題。私たちが住む「まち」や社会システムは若い世代が多く人口がピラミッド型をしていた時代につくられたもので、これから日本が直面する超高齢社会のニーズにはとても対応できない。90年の人生を健康で、もてる能力を最大限に活用して、自分らしく生きるとは、長寿社会に生れた私たちに与えられた特典であり、チャレンジでもある。長寿社会の課題と可能性を科学的データや取り組みの具体例を紹介してお話したい。



東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授

**秋山 弘子氏**

**【講師プロフィール】**

イリノイ大学でPh.D(心理学)取得、米国の国立老化研究機構(National Institute on Aging)フェロー、ミシガン大学社会科学総合研究所研究教授、東京大学大学院人文社会系研究科教授(社会心理学)、日本学術会議副会長などを経て、現在、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授。専門=ジェロントロジー(老年学)。高齢者の心身の健康や経済、人間関係の加齢に伴う変化を20年にわたる全国高齢者調査で追跡研究。近年は超高齢社会のニーズに対応するまちづくりにも取り組む。超高齢社会におけるよりよい生のあり方を追求。

**15:20～16:05 講演 ② パワースポットとしての高蔵寺ニュータウン～都市を立地条件から見つめる～**

都市を作ったのはだれか?と問えば様々な解答が出てくる。王様などの為政者、深い知識をもつ設計者、生活や仕事に必要な設備・施設を作る人、そして、その地域で工夫を重ねながら暮らし続ける人々など。そもそも、都市の成否はその土地固有の条件に大きく作用される。立地条件のわかる人が関与したり住んだりする都市は未永く生き延びるのではないだろうか。そのような達人になるための方法について高蔵寺ニュータウンで考えてみよう。



中部大学 工学部 都市建設工学科 教授

**磯部 友彦**

**【講師プロフィール】**

1980年、名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程土木工学専攻修了。名古屋大学助手、群馬大学助教授をへて、1993年に中部大学助教授、2007年より現職。工学博士。専門は、土木計画学、地域交通政策、福祉のまちづくり。日本都市計画学会中部支部副支部長。日本福祉のまちづくり学会東海北陸支部長。春日井・豊田・恵那、瑞浪各市の都市計画審議会会長。春日井・小牧・江南・岩倉各市の地域公共交通会議会長。

※各講演終了後に、質疑応答時間を設けます。

**16:05～ 閉会挨拶** 中部大学 副学長・地域連携教育センター長 **後藤 俊夫**  
**16:10 終了予定**

キャンパスを春日井のまちに広げ、講義で得た専門知識を使って、学生が地域の人と人々を結びつけるメディエーター(媒介者)となり、地域の様々な課題に主体性をもって取り組んでいきます。この中部大学式 人材育成体験プログラムを通じて、建学の精神「不言実行・あてになる人間」を身につけた学生には、本学独自の資格『地域創成メディエーター』を認定。2015年度には「地域共生実践～春日井市問題発見のすすめ～」を講義として新設する予定です。

さらに、学生の成長を飛躍させる取り組みとして…  
**中部大学生がさまざまな形で関わる「地域との関わり体験プログラム」を導入します。**

**① 報酬型インターンシップ**  
 “報酬型”「給与を得る」+“インターンシップ”「就業&育成」=人材育成を目的とした就業体験

**② 高齢者・学生交流 Learning Homestay**  
 高齢者宅に学生がホームステイすることで、ニュータウンの高齢化問題を解決する新しい試み

**③ シニア大学**  
 中部大学アクティブアゲインカレッジ(CAAC: Chubu University Active Again College)  
 高齢者のセカンドライフづくりに貢献

**④ キャンパスタウン化**  
 大学とニュータウンが一体化し、広がる学びの場

**⑤ 生活・住環境を考える まちづくり**  
 地域の人々が安心して快適な生活を送るための研究を促進

**⑥ コミュニティ情報ネットワーク**  
 地域の人々の役に立つ情報ネットワークの構築を目指す

※「地域との関わり体験プログラム」など、詳しくはホームページ(下記アドレス)をご覧ください。